北陸石仏の会々報

第5号
平成6年2月27日発行

編集発行
北陸石仏の会（日本石仏協会北陸支部）
代表　藤村善雄
〒939-13　富山県砺波市太田一七七〇　尾田武雄方
電話　〇七六三－三二－二七七二
振替　金沢四－一一九七四

「上日寺伽藍絵図」拝観の機会を得て

斉藤善夫

氷見上日寺で本会総会が開かれた折、長押から垂れて余りある大幅の絵図が披露された時、思わず歓声を洩らした。左から、しの字にかかれた黒い水路は結界か、見事な構図にも圧倒された。

「いつを描いた絵だろうか」「いつ描いたのだろう」あのとき抱いた小さな疑問は、今も心を離れない。当日の「上日寺をめぐって」の講師、田中清一さんから頂いた沢山の資料の中に

① 軸に貼られた題僉「当山往古伽藍之絵図　元禄九龍集閼逢困敦載林鐘十八日補理焉　現住観龍上日寺整置者也」

② 箱蓋裏墨書「旨　元禄九龍集閼逢困敦載林鐘吉日　現住持法印観龍代補置焉者也」（旨…時。龍集…干支を伴って記す語。閼逢…甲。困敦…子・載…年。林鐘…六月）の二点であった。

記述の内容に多少の違いはあるが、①②の筆跡は同一人とみられ、表装と収函が同時であったとうなずける。ただ写真で見る限り②の補の字は後で訂正した文字の感じがしてならない。題僉にいう「当山往古伽藍之絵図」の往古には、「昔の姿を推量して描いた」「絵図そのものが古い」というどちらともとれる二つの意味がある。この場合どちらだろうか。往古に意味はないのだろうか①②ともに元禄九龍集閼逢困敦となっているが、元禄九年は丙子、なぜ柔兆困敦と書かなかったのだろう。①では整置とし、②では補置となっている。なぜだろう。元禄九年（一六九六）に絵図を描いたのか、古図を表装したのか、それとも補修をしたのだろうか。

堂舎のすべてが入母屋造り、朱で連番をうったのは三十三所観音か。いつ建てたものだろう。中は木仏か石仏か。石段を除いて石造物とおぼしきものは蕨手のある燈篭が一基。他には無かったのか描かなかったのか。本迹のあかし赤い鳥居。緋袈裟の僧侶。袂の大きい襠の女性がいて髪型もいろいろ。

鐘楼があって鐘が見える。寛文三年（一六六三）の梵鐘新鋳勧進状に「唯恨旦暮雖見瓦色朱聞鐘音、爰勧進沙門某新懸鬼鐘欲銘焉宇、是多年慇懃願望也」とある。その後で造られた鐘を描いたものだろうか。寺鐘の銘にも「嘗恨玉楼未成金鐘都无」の辞句が見える。十二町潟から海へとつづく湊川、それへ注ぐ右手の小川は今の何川だろう。往古の時期を絵図の中に探して見たが、私の力では及ばない。もう一度こころゆくまで眺めて見たい。

北陸石仏の会　第五回例会記録

平成六年度総会を兼ねた第五回例会は、平成六年度の第一回目の例会ともいえる。平成五年十二月五日（日）、午前中は総会と研究発表。十二時から一時までが昼食時間であったが、その時間を惜しんで寺域内を散策される方があった。出席者、三十三名。

一時から田中清一氏の講義「上日寺をめぐって」。①氷見の略史、②氷見の石造物調査研究史、③上日寺の縁起と略史、④上日寺の建物・仏像等文化財、⑤上日寺三十三所観音石仏について、の内容と順序であった。うち、上日寺は寺伝によると越中最古の寺院であること、現在の本堂は現存越中最古の仏堂の可能性があること、『加越能金砂子』に見える珍しい上日寺絵図の紹介など、出席者を瞠目させた。

講義の延長として、門外不出の『上日寺伽藍絵図』の拝覧があった。実物でしか、しかも接近してしか見えないものが色々見える。堂宇には小さく朱書があり、観音堂には「本堂」とあり、三十三所観音小堂の一番は「本堂」の右からはじまり、同左から「大日堂」へ、そして戻って再び「本堂」の左に及んでいる。どうやら三十三所観音石仏造顕（元亀三年）まもなく成立の参詣曼荼羅のようである。

予定よりおくれ、二時半頃に傘をさして寺域内諸堂の参詣と見学となった。まず本堂入口の石仏・石塔、石段を登って観音堂へ。観音堂に向かって左の三十三所観音、その他の石仏、また石段を登って古い墓石多数を見ながら大師堂へ。戻って鎌倉時代の立派な「キリーク」板石塔婆、八十八ケ所石仏、再び観音堂へ。観音堂では斉藤善夫氏による鰐口の調査があって、明治のものであることがわかった。

午前から午後へと寒さが増し、参詣と見学時にはみぞれが降っているかに思われ、寒さが極にたっした。その中、三時半、次回を約して散会。若くて元気な有志は、庚申塚へ、あるいは氷見市立博物館へ向かった。

（京田）

第二回総会研究発表（一）

庚申塔分類試論

富山県の庚申塔の形態と像容による分類を試みて

滝本靖士

先日の第五回例会での研究発表を簡単に紹介いたします。

現在、富山県内で一七三基の庚申塔を確認しており、そのうち文字塔は二七基で、像塔は一四六基でありました。

文字塔の多くは「庚申塚」・「庚申」・「庚申塔」であり「庚神塚」・「高槙塚」・「庚辛塚」等もみられ、「青面金剛」・「南無青面金剛」等を刻むものもみられる。形態は大半が自然石をそのまま用いており、割石や角柱型に加工したものもみられるが数は少ない。

また像塔の大部分は青面金剛像であり、その他の像としては猿田彦神像・女神像・三宝荒神像・一猿像・三猿像がみられます。青面金剛像の多くは一面六手で、向かって右辺に輪宝・人身・弓を持ち、左辺に矛（三股叉）・剣・矢を持つものが普通である。

神通川周辺および立山道には一面六手合掌像がいくつかみられ、この形のものは年代的に古いものが多く飛騨地方によくみられることから、この地方からの石造物としての流れではないかと思われる。一面四手像がいくつかみられるが、分布は県内全域に点在

文字塔「庚申塚」

砺波市千代　明治19（1886）

青面金剛像

富山市関　文政13（1830）

しており、この像のある集落の絵像（庚申講の掛軸）には石造物と同じ像容のものが多くみられ、このことから掛軸の姿をもとに彫られたと考えられる。また三面六手像が黒部市内に三基みられる。

像塔にみられる形態は大別して光背型・駒型・角板型・笠付角柱型・笠付円盤型であり、光背型と駒型とは県下全域にみられるが、他は限られた地域に集中している。また角板型と笠付円盤型とは他県にみられない型である。

富山県内で最も古い在銘庚申塔は立山町末三賀の青面金剛像で元禄一三年（一七〇〇）の一面四手像である。また文字塔では大山町花崎の「南無青面金剛」に延享元年（一七四四）の銘がみられる。「庚申」あるいは「庚申塚」と刻まれたものは比較的新しく、新湊市放生津の「庚申塚」に嘉永二年（一八四九）の銘がある。

第二回総会研究発表（二）

石工 森川栄次郎の研究

尾田武雄

富山県西部とくに砺波地方は、婦人ボランティアなどによって石仏調査が進められています。その報告書などによって、多くのことがわかってきました。①地蔵が非常に多い。②幕末・明治期に爆発的に造立された。③石材は、主に地元庄川町金屋から採掘される、緑色凝灰岩の金屋石を使用している。④路傍の石仏ながら、ほとんど堂に入り管理者が周知されている。⑤井波町瑞泉寺

に安置している聖徳太子南無二歳仏の模刻石仏が、多く展開している。⑥石仏の種類がバラエティーに富んでいる。⑦石仏まつりが継承されている。⑧現世利益の名のついた石仏が少ない、等です。

特にこの地方では、幕末・明治期に金屋石を使った石仏が多いというのが最も大きい特長と思われます。またこの時期には、石仏を千体も作ったという石工森川栄次郎が輩出しています。その墓碑には次のようにあります。

森川翁墓誌
森川翁通称榮次郎生於茶木村幼頴悟挙止抜群石匠
準慶使養継同姓榮次郎之後更與準慶之名翁平素執
刀屹々不倦刻佛像一生及所作一千餘　篤信禮佛一
聞教義終世不忘而寡言力行人以取範明治卅六年春
初詠辞世和歌豫如知死期四月四日其所作太子尊像
偶有流汗之事家人異之翁其翌五日念佛精進如眠終
逐大往生嗣子榮吉建墓請予記平生之一端乃書以應
之
昭和甲戌歳孟秋龍國山主量性撰并書

（現代文に訳す）

森川栄次郎さんは茶の木村（現在の砺波市茶ノ木）に生まれた。幼い時から頭脳がよく、ふるまいの立派なことも抜群だった。石工の師匠準慶は彼を養子とし、あとでは準慶と言う名も継がせた。

彼は石の彫刻の仕事に打ち込み、彼の刻んだ仏像は一生涯に千体余りにも達した。すこぶる信仰心が厚く、説法を一度聞いても死ぬまで忘れることがなかった。その上に黙々と努力する生きざまを人々は自らの手本とした。明治三十六年の正月、彼はここに書いてある辞世の和歌を詠んだが、前もって自分の死期を悟っていたように思われる。

四月四日に彼の作った聖徳太子の尊像から汗が流れているのを見て、家族等は異様なことに驚いていたのだが、栄次郎さんは、あくる日の五日に念仏を唱えながら眠るようにして、大往生を遂げたのだった。

今度、後継ぎの栄吉が墓を建てることにしたが、私に「ぜひ墓誌を書いてください。」と頼みに来たので、栄次郎さんの平生の一端を書いて、その頼みを引き受けたのだ。

昭和九年初秋　龍国山住職量性
文章と揮毫

砺波市太田万福寺

北陸石仏の会 第二回総会記録

平成五年十二月五日（日）、富山県氷見市上日寺に於いて午前十時より第五回例会に先だち役員会、つづいて第二回総会が開かれた。総会次第に従って、①開会、②会長挨拶、③議長選出は久世嘉太郎石川県幹事に決定、④議事に入り平成五年度事業報告、決算報告、平成六年度事業計画、予算計画、その他が審議されて、承認決定された。尚会計監査は渡辺三四一（新潟）により承認されました。つづいて二～四頁に要旨掲載の研究発表があり、十二時過ぎに閉会となりました。

尚平成六年度役員は役員任期二年の規約により、現役員が引続き担当致します。

平成五年度事業報告

一、設立総会（兼、平成五年度総会）

平成四年十月十九日（月）富山市の銀嶺荘において、日本石仏協会坂口会長、小松幹事をはじめ四十七名出席のもと、午後三時から行われ、閉会後、午後六時三〇分から、出席者二十二名による懇親会がもたれた。総会次第は次の通り。

① 開　会　一五・〇〇
② 趣旨説明
③ 支部組織について　一五・一〇
④ 設立宣言　一六・〇〇
⑤ 来賓祝辞　一六・一〇
⑥ 記念講演　一六・二〇
講師・日本石仏協会会長　坂口和子氏
演題・「石仏との出会い」
⑦ 諸連絡　一七・三〇
⑧ 閉　会　一七・四〇

二、平成五年度役員

会　長　藤村善雄（石川）
副会長　北野正明（福井）・京田良志（富山）・阿部茂雄（新潟）
事務局長　柳澤栄司（富山）
監　査　渡辺三四一（新潟）
幹　事　尾田武雄・晒谷和子・樽谷雅好・平井一雄（富山）
大久保まさ子・山本昭治（福井）
久世嘉太郎・木綿たき子（石川）
石田哲弥・星野紀子（新潟）

三、例　会

第一回・平成四年十月二十日（火）
・富山県中新川郡（日石寺・富山県立山博物館）
・参加者　二十五名
第二回・平成五年三月二十八日（日）
・金沢市（宝泉寺・観音院・石川県立歴史博物館・兼六

園・月照寺・玉泉寺・野田山墓地）
・参加者　五十一名

第三回・平成五年七月十八日（日）
・小浜市（常高寺・化粧地蔵・円照寺・明通寺・羽賀寺）
・参加者　二十三名

第四回・平成五年九月二十六日（日）
・栃尾市（一之貝諏訪神社・同八幡社・一之貝旧道石仏・秋葉神社・下来伝ほだれ様・森上南部神社・森上ツンネ石仏）
・参加者　百十五名

四、会報の発行

第一号　平成五年二月二日発行　八頁
第二号　平成五年六月十八日発行　四頁
第三号　平成五年八月二十六日発行　四頁
第四号　平成五年十一月五日発行　四頁

五、その他

・会旗樹立　平成五年七月十八日　樹立披露
・平成六年度総会兼第五回例会（本日）

平成5年度決算報告　平成5年11月18日現在

収入	会費 1,500×92	138,000	
	第2回例会残金	12,720	
	第3回例会残金	17,225	
	寄付金（藤田豊久）	500	
	〒利息	17	
	計	168,462円	

支出	5. 2.25	封筒等（小谷書店）	1,180
	3. 1	会報No.1送料（太田〒）	6,005
	3. 3	会報No.1印刷代（広文堂印刷）	37,080
	3. 8	石仏の会ゴム印（佐藤印房）	1,540
	4. 4	切手（中島〒）	1,240
	5.19	はがき（太田〒）	3,600
	6.15	会報No.2送料（太田〒）	5,208
	〃	封筒など（小谷書店）	1,080
	〃	会報No.2印刷代（広文堂印刷）	18,540
	6.16	切手（太田〒）	744
	6.30	切手（太田〒）	3,100
	8.18	パソコン用紙など（平井）	5,000
	8.26	会報No.3と封筒・印刷代（広文堂印刷）	38,110
	〃	会報No.3送料（太田〒）	5,580
	10. 1	切手（太田〒）	1,860
	11.17	会報No.4送料（太田〒）	7,130
	11.18	会報No.4印刷代（広文堂印刷）	19,570
	計		156,567円

収入　支出
168,462－156,567＝11,895
次年度繰越金　11,895円

平成5年11月23日
渡　辺　三四一　㊞

平成6年度予算書

収入	前期繰越金	11,895
	会費（1,500×100名）	150,000
	例会余剰金	30,000
	寄付金	5,000
	計	196,895円

支出	事務費	25,000
	会報代	125,000
	郵送料	40,000
	次期繰越金	11,895
	計	196,895円

第五回例会出席者名簿（順不同）

亀沢　和子
酒井　和
田村　京子
京田　千鳥
大野　猪策
牧野たか子
太田　幸子
富田　幸
埜村　輝子
野上　英子
大浦　美子
加藤　永子
斉藤　善夫
京田　良志
尾田　武雄
柳沢　栄司
平井　一雄
田中　清一
氷見博物館長
酒井　初江
新出　雅美
南　金三
藤村　善雄
三井　紀生
五十嵐一雄
久世嘉太郎
彦坂　貞次
滝本　靖士
大久保まさ子
北野　正明
北野奥さん
川村　新治
永原　栄一

平成六年度事業計画

一、総会

・月日時　平成五年十二月五日（日）午前十時より
・会　場　上日寺（氷見市朝日本町）
・次　第　役員会、総会（平成五年度事業報告・同決算報告・平成六年度役員・同事業計画・同予算案・その他）
・研究発表と講義

二、例会

第五回　五年十二月五日　富山県氷見市上日寺
第六回　六年三月二十七日　石川県石川郡鶴来町
第七回　六年六月五日　岐阜県吉城郡宮川村（富山県担当）
第八回　六年八又は九月　福井市一乗谷
第九回　六年十～十二月の間　新潟県中蒲原郡村松町
（一泊二日）　平成七年度総会、研究発表、講演

三、会報の発行

各例会の一ヶ月前

四、その他

① 平成五年度文献目録の編集
② 一泊例会について
③ 会則改正について
④ 会報の充実について
⑤ その他

北陸石仏の会第六回例会案内

月日：平成六年三月二十七日（日）

時間：集合　午前九時二五分
ＪＲ金沢駅中央出口

穴水 6:35→金沢 9:06
福井 7:50→金沢 9:11
8:21→ 9:14
富山 8:17→金沢 9:21
8:36→ 9:14

出発：午前九時四〇分

コース：
① 久昌寺　金沢市堀川町二九ー二（☎三一ー五六三四）　9:50〜10:20
② 養智院　金沢市片町二ー一三（☎三一ー二八一七）　10:30〜11:00
③ 千手院　金沢市野町三ー一ー二六（☎四一ー一三八四）　11:10〜11:30
④ 白山比咩神社　石川郡鶴来町三の宮町　12:00〜12:20

昼食：鶴来・志度山荘（☎〇七六ー一九ー二ー〇〇七五）　12:25〜13:20

⑤ 波切不動　石川郡鶴来町新町　13:25〜13:50
⑥ かたがり地蔵　石川郡鶴来町白山町　13:55〜14:05
⑦ 八幡神社　石川郡鶴来町八幡町　14:10〜14:30
⑧ 一閑院　石川郡鶴来町本町　14:40〜15:00

解散：午後三時四五分
ＪＲ金沢駅中央入口

金沢 16:28→福井 18:02
16:17→ 17:06→敦賀 17:40
金沢 16:25→富山 17:45
16:03→ 16:40→長岡 18:31
金沢 16:11→穴水 18:25

参加費：五、〇〇〇円（バス代、昼食代を含む）

参加連絡先：平成六年三月二十一日まで、ハガキにて、
事務局（〒939ー13　富山県砺波市太田一七七〇
尾田武雄方、北陸石仏の会）へ一報下さい。

平成六年度会費納入の御依頼

年度が改まりましたので六年度の年会費一、五〇〇円の納入をお願い致します。
六月末日迄に納入の無い方は退会されたものとみなします。